

「記憶を呼び出すためのノート」のつくりかた

今日は、「記憶を呼び出すためのノート」のつくりかたを教えます。

自分よりも勉強ができる人の頭の中を見たいと思ったことはありませんか。

なんであんな解き方ひらめくねん。

なんであんなにはやくとけるねん。

なんであんなにはやく文章が読めるねん。

なんであんな答えの記述書けるねん。

なんであんな点数とれるねん。

なんであんなにかしいねん。

なんであんなに……………

さすがにその勉強ができる人の頭の中を見ることはできません。

でも、頭の中のようなものを見ることはできます。

それがその勉強ができる人のノートです。

その人のノートの中には、「なんで」「あんなに」の答えがあります。

たしかに、そんなノートがなくても勉強ができる人はいます。

そういう人は才能で乗り越えています。

小学生の中には、才能だけで勉強ができる人はたくさんいます。

何もしなくても 100 点がとれた。

君たちもそうだったかもしれません。

中学生の中にも、才能だけで勉強ができる人は少しいます。

何もしなくても 100 点がとれる。

君たちには無理です。先生も無理でした。

才能だけで勉強ができるようになることには限界があります。

この才能の不足分をうめるのが努力です。

その努力の一つが「記憶を呼び出すためのノート」をつくることです。

ここからは、「記憶を呼び出すためのノート」のつくりかたを教えます。

とくに板書を写す場合などの、「受動的な」ノートのつくりかたです。

(自分でまとめる「能動的な」ノートのつくりかたは「まとめかた」というタイトルで別に教えます。)

一応、簡単なポイントは書いておきますが、ここからは実際に一緒にやってみましょう。

実際にやってみないとわからないと思います。やりながらコツをつかんでみましょう。

ポイントは3つ。①「そろえる」、②「わかる」、③「あける」。①そろえるものは2つ。④文字のサイズと⑤行頭。④文字のサイズをそろえるコツは1行の使い方。⑤行頭をそろえるコツはズラシ。②わかるものは2つ。⑥理解度と⑦重要度。⑥理解度をわけるコツは島をつくること。⑦重要度をわけるコツはカラーリング。③あけるものは2つ。⑧空白と⑨余白。⑧空白は将来のためのスペース。⑨余白は見栄えのためのスペース。

反対に、勉強ができない人のノートはこういうことができていません。バラバラ、ガタガタ、まぜる、つめる…最悪です。成績なんかあがるはずがありません。たぶん写しているだけです。まるでコピー機です。(アンキパンだったらそれでいいのですが…)

さらに上があります。上級者のやりかたです。

ポイントはメリハリをつけること。大小、強弱、濃淡、暖寒など。

意識的にこういうことができれば最高なのですが、まずは基本をおさえましょう。

上級者になるのはそれからです。

最後に…

このプリント、読みにくくないですか？ そう思った人はだいじょうぶです。

勉強ができる人になります。勉強ができるようになる「記憶を呼び出すためのノート」をつくることができます。